

高等学校普通科書道学習指導案

科 目 名 「漢字仮名交じりの書」

対 象 学 年 普通科書道履修 1 年生 男子 14 名 女子 15 名 単位数 2 単位

授 業 者 北海道松前高等学校 教諭 天満谷 貴之 西川 竜矢

- 1 目標 漢字仮名交じりの書の学習を通して、名筆（古典・古筆）や近現代の作家の作品から、多様なよさや美しさを理解し、自己の意図に基づいて構想を練り、創造的な表現の能力を高める。

2 評価の観点の趣旨

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
書の伝統や文化に関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	漢字仮名交じりの書の表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、漢字仮名交じりの書の効果的な表現の技能を身に付け表している。	文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考え、漢字仮名交じりの書のよさや美しさを創造的に味わっている。

3 はじめに

本校普通科芸術科目は、平成22年度に、音楽から書道へ移行され、今年で3年目を迎える。今年度は、1学年57名、2学年36名、3学年71名の計164名在籍している。1・2学年は、書道必修とし3学年では、学校設定科目として、応用の書（2年選択含）、漢字仮名交じりの書（近代詩文書）が設定されており3年間で最大11単位を履修することができる。また本校は、平成23年度から2ヵ年に渡り、国立教育政策研究所「教育課程研究指定校事業」（芸術科書道）を受け、研究主題である、新学習指導要領の趣旨を具体化するための教育課程編成、指導方法等の工夫改善に関する研究（高等学校）の実践を行っている。

今回の改訂では、総合的に書についての理解を深める観点から、書道Ⅰでは、次のように学習目標を提示されている。
①表現領域の3分野をすべて学習すること。②「漢字仮名交じりの書」において名筆を生かした表現を取り入れ、表現の深化を図ること。③「漢字の書」において扱う書体を広げること。④「仮名の書」における散らし書きについて積極的に扱うこと。⑤篆刻・刻字等の立体に対する表現等への配慮。⑥鑑賞領域において、漢字の書体の変遷や仮名の成立を指導事項とする。また言語活動の充実にも活発な取り組みが求められている。これらを受けて本校では、主体的に書道の学習に取り組む態度を養い、生徒の思考力、判断力、表現力を育成し、多様な観点から理解の深化を図っていきたい。

今回の公開授業では、「漢字仮名交じりの書」の指導領域を本校の生徒の実態に応じた学習到達目標に設定し書表現の諸要素を段階的に取り入れる手立てを提示すると共に、名筆（古典・古筆）との関連を自己の意図に基づいた取捨選択を行う活動場面を通して、創造的な書作品へと変容していく過程を目的とする。また、「言葉」の選定については、国語科との連携を生かし単元で学習した近代の詩人の詩からその趣旨を言葉に転換し素材として活用することで、生徒自らの「言葉」に対する思いを基調とした実践を行い、表現力の向上も視野にいった取り組みとしていきたい。

4 単元名 「漢字仮名交じりの書 ～書表現の諸要素を活用した名筆の扱い～」

5 単元設定の理由

漢字仮名交じりの書が担う領域として、中学校国語科書写との関連に配慮しつつ、表現と鑑賞を生かした名筆の扱いを具体化したなかで意欲的・主体的な取り組みが求められている単元である。また、「漢字の書」と「仮名の書」との相互関連を図りながら「漢字仮名交じりの書」を実践することに学習指導要領改訂の主旨がある。

そこで、書表現の諸要素を名筆（古典・古筆）と関連させながら、線質や結体、全体の構成などに特徴があることを理解させることで、漢字仮名交じりの文を効果的に表現する能力を養うことにつながる。また、自己の意図を実現する構想と鑑賞学習、加えて表現を自ら考え、形にすることを目的として単元を設定した。

6 単元の目標

- (1) 名筆（古典・古筆）による学習を通して、漢字仮名交じりの文化や歴史についての理解を深め、意欲的・主体的な活動を行う。（書への関心・意欲・態度）
- (2) 名筆（古典・古筆）を通して、漢字と仮名の特徴や美しさを感じ取り、自らの意図に基づいて創造的に表現を工夫する。（書表現の構想と工夫）
- (3) 名筆（古典・古筆）のよさや美しさを感じ、用具・用材の特性を生かして、自らの意図に基づいた漢字仮名交じりの書の効果的な表現技能を身に付ける。（創造的な書表現の技能）
- (4) 名筆（古典・古筆）の鑑賞を通して、表現効果を味わうと共に、観賞能力の向上を高め自らの言葉で表現できる能力を身に付ける。（鑑賞の能力）

7 内容の評価規準（単元の評価規準）

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
書の伝統と文化を尊重し、主体的、創造的に漢字仮名交じりの書の学習に取り組もうとする。	漢字仮名交じりの書表現の諸要素を感じ、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現している。	創造的な書表現をするために、漢字仮名交じりの書の効果的な表現の技能を身に付け表している。	文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考え漢字仮名交じりの書のよさや美しさを創造的に味わっている。

8 単元の具体の評価規準

1 書への関心・意欲・態度	2 書表現の構想と工夫	3 創造的な書表現の技能	4 鑑賞の能力
ア、書の伝統と文化を尊重している。 イ、文房四宝（用具・用材）に関する知識や扱い方を理解し、その特性を生かした表現に、意欲的、主体的に取り組んでいる。 ウ、漢字仮名交じりの書を理解し、尊重する態度が身についている。 エ、「名筆」の内容や特徴、表現様式を理解している。	ア、「名筆」の書表現の諸要素を感受している。 イ、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 ウ、多様な運筆・用筆全体構成を習得し、自らの意図に基づいた様々な構成や線質を表現する能力を養っている。 エ、言葉（素材）を読み、その背景や情報を整理し、表現力を養っている。	ア、「名筆」の効果的な表現の技能を身に付けている。 イ、文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身に付けて表している。 ウ、書表現の諸要素を、自己の意図に応じて活用し、表現様式の特徴を理解している。	ア、文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考えている。 イ、「名筆」のよさや美しさを創造的に味わっている。

9 指導と評価の計画

次	時	ね ら い	具体の評価規準との関連	評価方法等
第一・二次	前期	- 一年間の学習内容を知る。 - 漢字仮名交じりの書について理解する。 - 文房四宝（墨・硯）についてDVD鑑賞しワークシートで背景について理解する。（体験学習含） - 文房四宝（筆・紙）についてDVD鑑賞し、ワークシートで背景について理解する。（体験学習含） - 本時の学習内容を確認する。	1－ア 1－ウ 1－イ 1－イ 1－ア、イ	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート
第二・三次	前期	- 前時の授業内容を想起する。 - 本時の授業内容を知る。 - 筆おろしと筆の特性を学ぶ。 - 文字を書く。（言葉を書く） - 文房四宝についてまとめる。（レポート提出の指示） - 本時の学習内容を確認する。	1－ア 1－イ 1－イ、 1－イ、ウ 4－ア 1－ア	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・資料 観察・作品 観察・資料 観察・ワークシート

第一次	後期	・前期の学習内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・活字の言葉と筆文字で書いた言葉との違いを鑑賞し特徴を確認する。 ・漢字仮名交じりの書（DVD）を鑑賞し、感想をまとめる。 ・自己評価 ・本時の学習内容を確認する。	4－ア 1－ウ 4－ア 4－ア、イ 4－ア 4－ア、イ	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 作品資料 観察・ワークシート 観察 観察・ワークシート
		・前時の授業内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・活字から言葉を想像しまとめる。 ・鑑賞の視点を理解することができる。 ・試書 ・自己評価 ・本時の学習内容を確認する。	4－ア 1－ア 4－ア 4－ア 1－ウ 1－ウ 4－ア	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート
第三次	後期	・前時の授業内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・古典から得る用筆法を理解する。 ・用筆法から得る線質を理解する。 ・試書 ・自己評価 ・本時の学習内容を確認する。	4－ア 1－ウ 3－ア 3－ア 4－イ 3－ア 3－ア	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート・資料 観察・ワークシート・資料 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート
		・前時の授業内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・書表現の諸要素（構成）について理解する。 ・書表現の諸要素（構成）における学習について確認する。 ・試書 ・自己評価 ・本時の学習内容を確認する。	4－ア、イ 2－ウ 2－ウ 2－ウ 1－ア 2－ア 2－ア、ウ	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート
第四・五次	後期	・前時の授業内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・古筆（三色紙）から構成を理解する。 ・書表現の諸要素を活用し、構成の違いを確認する。 ・試書 ・自己評価 ・本時の学習内容を確認する。	4－ア、イ 2－ア 2－ア 2－ア 1－ア 2－ア、ウ 2－ア	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート
		・前時の授業内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・古筆（三色紙）から構成を理解する。 ・書表現の諸要素を活用し、構成の違いを確認する。 ・試書 ・自己評価 ・本時の学習内容を確認する。	4－ア、イ 2－ア 2－ア 2－ア 1－ア 2－ア、ウ 2－ア	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート

第六次	後期	・前期の学習内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・書表現の諸要素（空間・字形・落款・文字の大小）について、理解する。 ・書表現の諸要素を生かし、漢字仮名交じり文で表現する。 ・試書 ・自己評価 ・本時の学習内容を確認する。	4－ア 4－ア、イ 2－ウ 1－ウ 4－ア、イ 2－ア 2－ウ	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート
	後期	・前時の授業内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・漢字と仮名の調和（リズムを用いた）を理解する。 ・言葉の深まりを理解し、試書する。 ・自己評価 ・本時の学習内容を確認する。	1－ア 1－ウ 1－ウ 2－イ、ウ 2－イ、ウ 2－イ	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート・音楽 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート
第八次	後期	・前時の授業内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・言葉を読み、言葉の意味や情景を想像する。 ・与えられた言葉から自己の意図に基づいた構想をもとに、書表現の諸要素を選択し活用する。 ・試書 ・自己評価 ・本時の学習内容を確認する。	2－イ 3－イ 3－イ 2－イ 2－ウ 2－ウ 2－ウ	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート
	後期	・前時の授業内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・書表現の諸要素から取り入れる名筆との関わりを理解する。 ・自己の意図した作品と名筆との関連を書表現の諸要素から理解し、試書する。 ・自己評価 ・本時の学習内容を確認する。	2－イ 3－ウ 3－ウ 3－ア 2－エ 3－ウ	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート
第九・十次	後期	・前時の授業内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・書表現の諸要素から取り入れた、意図との関連を学習し、試書を通した草稿づくりをする。 ・自己評価 ・本時の学習内容を確認する。	2－イ 1－エ 3－イ、ウ 2－エ、ウ 3－ウ	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート
	後期	・前時の授業内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・書表現の諸要素から取り入れる名筆との関わりを理解する。 ・自己の意図した作品と名筆との関連を書表現の諸要素から理解し、試書する。 ・自己評価 ・本時の学習内容を確認する。	2－イ 3－ウ 3－ウ 3－ア 2－エ 3－ウ	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート

第十一次	後期	・前期の学習内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・書表現の諸要素から取り入れた、自己の意図との関連を確認し、作品制作する。 ・自己評価 ・本時の学習内容を確認する。	4ーイ 1ーエ 2ーイ、ウ、エ 1ーエ 2ーエ	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 書画カメラ 観察・ワークシート 観察・ワークシート
第十二次	後期	・前時の授業内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・言葉と書表現の諸要素が一致した作品表現であるか確認する。 ・言葉を通して書表現の諸要素から取り入れた、自己の意図との関連を再確認し、作品制作する。 ・自己評価 ・本時の学習内容を確認する。	4ーイ 2ーア 2ーイ 2ーイ、ウ 2ーイ、ウ 2ーイ、エ	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート
第十三・第十四次	後期	・前時の授業内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・言葉を通して書表現の諸要素から取り入れた、自己の意図と名筆の関連を明確にする。 ・自己の意図と制作した作品を鑑賞し、確認する。 ・自己評価 ・本時の学習内容を確認する。	4ーイ 2ーイ、ウ 4ーイ 4ーイ 2ーウ 2ーウ	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート
第十五次	後期	・前時の授業内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・自らの言葉を読み深め、漢字と仮名の表現様式を理解する。 ・自らの意図に基づいて、言葉と書表現の諸要素、名筆との関連を意識し、漢字仮名交じり文で表現する。 ・自己評価し、第1回目の作品制作を行う。 ・本時の学習内容を確認する。	4ーイ 3ーイ、ウ 1ーウ 3ーア、イ、ウ 1ーウ、エ 3ーア、イ、ウ	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート
第十六次 本時	後期	・前時の授業内容を想起する。 ・本時の学習内容を知る。 ・国語科の連携を通して、素材の元となった作者の書を鑑賞する。 ・自己の言葉を再確認し、書表現の諸要素と名筆との関連を確認しながら、第2の作品制作を行う。 ・2回目の作品を通して、再度言葉との意味合いを意識し、3回目の作品制作を行う。 ・2回目、3回目の作品を鑑賞し、自己の意図に近づけられているか、作品に変化が生じたのか確認する。 ・自己評価し、自己の意図を整理し伝える。	4ーイ 3ーア、イ、ウ 4ーイ 3ーイ、ウ 1ーウ、エ 3ーア、イ、ウ 1ーウ、エ	観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート 観察・ワークシート

第十七次	後期	・ 前時の授業内容を想起する。	4ーア、イ	観察・ワークシート
		・ 本時の学習内容を確認する。	3ーア、イ、ウ	観察・ワークシート
		・ 本時の学習内容を知る。	4ア、イ	観察
		・ 1回目、2回目、3回目の作品から、自己の意図に基づいて表現した作品を鑑賞する。	1ーウ	観察
		・ 他者の作品鑑賞を行い、作品の鑑賞をする際に書要素や名筆との関わりを意識しながら鑑賞する。	1ーウ	観察・鑑賞カード
		・ 各グループになって、他者の作品に対する意図をそれぞれ出し合い、共通した点を発表する。	1ーア、ウ	観察・鑑賞カード
		・ 自己評価し、自己の意図と他者からの意図との相違関係を知り、今回の取り組みの成果・課題とする。	4ーア、イ	観察・鑑賞カード
		・ 本時の学習内容を確認する。	4ーア、イ	観察

10 単元の評価

- (1) 名筆（古典・古筆）による学習を通して、漢字仮名交じりの文化や歴史についての理解を深め、意欲的・主体的な活動を行うことができたか。
(書への関心・意欲・態度)
- (2) 名筆（古典・古筆）を通して、漢字と仮名の特徴や美しさを感じ取り、自らの意図に基づいて創造的に表現を工夫することができたか。
(書表現の構想と工夫)
- (3) 名筆（古典・古筆）のよさや美しさを感じ、用具・用材の特性を生かして、自らの意図に基づいた漢字仮名交じりの書の効果的な表現技能を身に付けることができたか。
(創造的な書表現の技能)
- (4) 名筆（古典・古筆）の鑑賞を通して、表現効果を味わうと共に、観賞能力の向上を高め自らの言葉で表現できる能力を身に付けることができたか。
(鑑賞の能力)

1 1 学習指導案

(1) 前期 第一・二次の学習指導目標

- ① 「文房四宝」について理解する。(書への関心・意欲・態度)
- ② 「文房四宝」の鑑賞と体験を通して、書の伝統と文化を理解する。(書への関心・意欲・態度)

(2) 第一・二次の学習指導の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資 料
導 入	・出席確認 ・本時の学習内容を知る。	・出席確認 ・本時の学習内容を想起するようにする。	・シラバスの説明をして学習の流れを確認するようにする。	・書の伝統と文化を尊重している	
展 開	・文房四宝について確認する ・(墨・硯・筆・紙の順番)	・文房四宝について確認するようにする。 ・(墨・硯・筆・紙の順番)	・文房四宝について触れるようにする。	・漢字仮名交じりの書を理解し、尊重する態度が身についている。	DVD ワークシート
	・文房四宝の制作過程の映像を、DVDを通して一つ一つ鑑賞する。	・文房四宝の制作過程の映像を、DVDを通して一つ一つ鑑賞するようにする。	・映像を通して、文房四宝の制作過程を確認するようにする。	・文房四宝(用具・用材)に関する知識や扱い方を理解し、その特性を生かした表現に、意欲的、主体的に取り組んでいる。	ワークシート
	・文房四宝の制作過程でポイントになる点をワークシートに記入する。	・文房四宝の制作過程でポイントになる点をワークシートに記入するようにする。	・文房四宝の制作過程でポイントになる点を、説明を通して確認するようにする。	・書の伝統と文化を尊重している。	ワークシート
	・DVD鑑賞の後、実物の文房四宝にふれ、文房四宝の中で最も興味をもったものをワークシートに記入する。 ○墨 油煙墨・松煙墨 ○硯 羅紋硯・端溪硯 ○筆 羊毛筆・兼毫筆 ○紙 手漉き・機械漉き	・DVD鑑賞の後、実物の文房四宝にふれ、文房四宝の中で最も興味をもったものをワークシートに記入するようにする。 ○墨 油煙墨・松煙墨 ○硯 羅紋硯・端溪硯 ○筆 羊毛筆・兼毫筆 ○紙 手漉き・機械漉き	・実物の手触りや匂い(墨)を通して、文房四宝の特徴を具体的に確認するようにする。	・文房四宝(用具・用材)に関する知識や扱い方を理解し、その特性を生かした表現に、意欲的、主体的に取り組んでいる。	ワークシート
整 理	・本時の学習内容を確認する。 ・次時の予告	・本時の学習内容を確認するようにする。 ・次時の予告	・文房四宝の特徴を改めて確認するようにする。	・書の伝統と文化を尊重している。	

(3) 第一・二次の評価

- ① 「文房四宝」について理解することができたか。(書への関心・意欲・態度)
- ② 「文房四宝」の鑑賞と体験を通して、書の伝統と文化を理解することができたか。(書への関心・意欲・態度)

1 1 学習指導案

(1) 前期 第三・四次の学習指導目標

① 筆の特性を理解する。(書への関心・意欲・態度)

(2) 第三・四次の学習指導の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資 料
導 入	・出席確認 ・前時の学習内容を想起する。	・出席確認 ・前時の学習内容を想起するようにする。	・前時の文房四宝について確認するようにする。	・文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考えている。	ワークシート
展 開	・本時の学習内容を知る。 ・自分の筆を持ち、筆おろし方の確認をする。 ○ほぐす ○墨をつける ・筆の持ち方を確認する。 ○単鉤法 ○双鉤法 ・書写と書道の違いに関して、線質と線の書き方から確認する。 ○縦線・横線 ・筆の洗い方に関して、根本を押して、しっかりと墨を落とすことを確認する。	・本時の学習内容を想起するようにする。 ・自分の筆を持ち、筆おろし方の確認をするようにする。 ○ほぐす ○墨をつける ・筆の持ち方を確認するようにする。 ○単鉤法 ○双鉤法 ・書写と書道の違いに関して、線質と線の書き方から確認するようにする。 ○縦線・横線 ・筆の洗い方に関して、根本を押して、しっかりと墨を落とすことを確認するようにする。	・筆に関して学習する事を知るようにする。 ・筆は手でゆっくりとほぐすようにする。 ・右利き、左利きの生徒を確認しながら、筆の持ち方を二通り説明するようにする。 ・書道は線質が表現の重要な要素になることを確認するようにする。 ・筆は根本に墨がたまりやすいため、しっかりと洗うようにする。	・書の伝統と文化を尊重している。 ・文房四宝(用具・用材)に関する知識や扱い方を理解し、その特性を生かした表現に、意欲的、主体的に取り組んでいる。 ・漢字仮名交じりの書を理解し、尊重する態度が身についている。 ・文房四宝(用具・用材)に関する知識や扱い方を理解し、その特性を生かした表現に、意欲的、主体的に取り組んでいる。	ワークシート 書画カメラ 筆 書画カメラ 筆 筆
整 理	・本時の学習内容を確認する。 ・次時の予告	・本時の学習内容を確認するようにする。 ・次時の予告	・筆の扱い方を確認するようにする。 ・次回の課題を確認する。	・文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考えている。	

(3) 前期 第二・三次の評価

① 筆の特性を理解できたか。(書への関心・意欲・態度)

1.1 学習指導案

(1) 後期 第一次の学習指導目標

- ① 鑑賞の仕方を理解することができる。 (鑑賞の能力)
- ② 鑑賞する際の観点を理解することができる。 (鑑賞の能力) (書への関心・意欲・態度)

(2) 第一次の学習指導の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資 料
導 入	・出席確認 ・本時の学習内容を知る。	・出席確認 ・本時の学習内容を想起するようにする。	・鑑賞学習は書表現の諸要素を把握する学習であることを知るようにする。	・文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考えている。	- ワークシート - NO, 1
展 開	・活字の文を読み、文から想像できる事などを踏まえながら、印象をワークシートに記入する。 ・活字の文の印象を踏まえて、改めて文を書にした作品を鑑賞し、印象を記入する。 ・文は四つある。 ○海のうたを聞く ○ありがとう-ありがとうって言葉をいまあなたに伝えるから ○生きる-喜びも悲しみも全て受け入れて ○海の轟き ・DVDを鑑賞し、漢字仮名交じり書に対する自分なりの印象をワークシートに記入する。 ・自己評価と鑑賞学習の感想を記入する。	・活字の文を読み、文から想像できる事などを踏まえながら、印象をワークシートに記入するようにする。 ・活字の文の印象を踏まえて、改めて文を書にした作品を鑑賞し、印象を記入するようにする。 ・文は四つある。 ○海のうたを聞く ○ありがとう-ありがとうって言葉をいまあなたに伝えるから ○生きる-喜びも悲しみも全て受け入れて ○海の轟き ・DVDを鑑賞し、漢字仮名交じり書に対する自分なりの印象をワークシートに記入するようにする。 ・自己評価と鑑賞学習の感想を記入するようにする。	・生徒が活字の言葉の内容を具体的に想像することが出来るようにする。 ・書作品を通して、活字との印象の違いを含め、ワークシートに記入するようにする。 ・DVDの映像を通して、書家の用筆法などから、意図に基づいた作品制作の基本をおさえるようにする。 ・自己評価し、感想を書くようにする。	・書の伝統と文化を尊重している。 ・文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考えている。 ・漢字仮名交じりの書を理解し、尊重する態度が身についている。 ・文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考えている。	- ワークシート - NO, 1 - ワークシート - NO, 1 - ワークシート - NO, 1 - ワークシート - NO, 1 - ワークシート - NO, 1
整 理	・本時の学習内容を確認する。 ・次時の予告	・本時の学習内容を確認するようにする。 ・次時の予告	・次時の課題を知るようにする。	・文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考えている。	

(3) 前期 第一次の評価

- ① 鑑賞の仕方を理解することができたか。 (鑑賞の能力)
- ② 鑑賞する際の観点を理解することができたか。 (鑑賞の能力) (書への関心・意欲・態度)

1.1 学習指導案

(1) 後期 第二次の学習指導目標

① 漢字仮名交じりの書について学んでいく流れをおさえることができる。

(書への関心・意欲・態度)

② 潤筆と渴筆の変化など書表現の諸要素について理解できる。(創造的な書表現の技能)

(2) 第二次の学習指導の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資 料
導 入	・出席確認 ・前時の学習内容を想起する。	・出席確認 ・前時の学習内容を想起するようにする。	・前時の鑑賞学習で学んだことを再確認するようにする。	・文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考えている。	ワークシート NO, 2
展 開	・本時の学習内容を知る。 ・漢字仮名交じりの書について、また今後の学習の流れに関して知る。 ・活字を読んで、言葉の意味や字体を考えながら、その文から想像できる場所・季節・時間・性別・年齢を考えて記入する。 ・作品を鑑賞する際の見方に関して7つの観点を確認する。 ・書表現の諸要素における線質を確認しながら、提示された課題を書く。 ※提示素材【夢の】 ・自己評価と線質の変化(潤筆・渴筆)を踏まえた作品を書いた感想を書く。	・本時の学習内容を想起するようにする。 ・漢字仮名交じりの書について、また今後の学習の流れに関して知るようにする。 ・活字を読んで、言葉の意味や字体を考えながら、その文から想像できる場所・季節・時間・性別・年齢を考えて記入するようにする。 ・作品を鑑賞する際の見方に関して7つの観点を確認するようにする。 ・書表現の諸要素における線質を確認しながら、提示された課題を書くようにする。 ※提示素材【夢の】 ・自己評価と線質の変化(潤筆・渴筆)を踏まえた作品を書いた感想を書くようにする。	・漢字仮名交じりの書の学習の流れをおさえるようにする。 ・漢字仮名交じりの書の学習の観点を確認するようにする。 ・活字を読んで、想像出来る言葉の印象を場所・季節・時間・性別・年齢の五つの観点で書くようにする。 ・作品鑑賞の観点を確認するようにする。 ・線質(潤筆・渴筆)を確認し、作品の立体感を意識させるようにする。 ・自己評価し、感想を書くようにする。	・漢字仮名交じりの書を理解し、尊重する態度が身に付いている。 ・書表現の諸要素を、自己の意図に応じて活用し、表現様式の特徴を理解している。 ・書表現の諸要素を、自己の意図に応じて活用し、表現様式の特徴を理解している。 ・「名筆」のよさや美しさを創造的に味わっている。 ・「名筆」のよさや美しさを創造的に味わっている。 ・「名筆」の効果的な表現の技能を身に付けている。	ワークシート NO, 2 ワークシート NO, 2 ワークシート NO, 2 ワークシート NO, 2 ワークシート NO, 2 ワークシート NO, 2
整 理	・本時の学習内容を確認する。 ・次時の予告	・本時の学習内容を確認するようにする。 ・次時の予告	・本時で書いた線質で、潤筆・渴筆の変化を確認するようにする。 ・次回の学習を知るようにする。	・「名筆」の効果的な表現の技能を身に付けている。	

(3) 後期 第二次の評価

① 漢字仮名交じりの書について学んでいく流れをおさえることができたか。

(書への関心・意欲・態度)

② 潤筆と渴筆の変化など書表現の諸要素について理解できたか。(創造的な書表現の技能)

1 1 学習指導案

(1) 後期 第三次の学習指導目標

- ① 漢字の書で学習した楷書と行書の古典の用筆法を再確認することができる。

(創造的な書表現の技能)(鑑賞の能力)

(2) 第三次の学習指導の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資 料
導 入	・出席確認 ・前時の学習内容を想起する。	・出席確認 ・前時の学習内容を想起するようにする。	・前時の線質に関して学んだことに関して、再確認するようにする。	・文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考えている。	- ワークシート - NO, 3
展 開	・本時の学習内容を知る。	・本時の学習内容を想起するようにする。	・本時は、古典(漢字の書)に基づいた用筆法の確認をするようにする。	・「名筆」の効果的な表現の技能を身に付けている。	- ワークシート - NO, 3
	・漢字の書で学んだ五つの古典である、孔子廟堂碑、九成宮醴泉銘、雁塔聖教序、温泉銘、蘭亭序を通して、用筆法や運筆の速度などを確認する。	・漢字の書で学んだ五つの古典である、孔子廟堂碑、九成宮醴泉銘、雁塔聖教序、温泉銘、蘭亭序を通して、用筆法や運筆の速度などを確認するようにする。	・古典から得る用筆法に関して、墨量・運筆法に着目しながら整理するようにする。	・「名筆」の効果的な表現の技能を身に付けている。	- 書画カメラ - ワークシート - NO, 3
	・運筆法として、直筆と側筆を確認する。	・運筆法として、直筆と側筆を確認するようにする。	・運筆法(側筆・直筆)を確認し、線質の違いを確認するようにする。	・文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考えている。	- ワークシート - NO, 3 - 書画カメラ
	・用筆法から得る線質の違いについて確認する。 ・自己評価と漢字仮名交じり書に書表現の諸要素として取り入れたい古典を記入する。	・用筆法から得る線質の違いについて確認するようにする。 ・自己評価と漢字仮名交じり書に書表現の諸要素として取り入れたい古典を記入するようにする。	・用筆法から得る線質の違いを確認するようにする。 ・自己評価をし、漢字仮名交じりの書に取り入れたい古典を書表現の諸要素を踏まえながら、記入するようにする。	・文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考えている。 ・「名筆」の効果的な表現の技能を身に付けている。	- ワークシート - NO, 3
整 理	・本時の学習内容を確認する。 ・次時の予告	・本時の学習内容を確認するようにする。 ・次時の予告	・用筆法や運筆法が線質に関わることを確認するようにする。 ・次回の課題を学習することを知るようにする。	・「名筆」の効果的な表現の技能を身に付けている。	

(3) 後期 第三次の評価

- ① 漢字の書で学習した楷書と行書の古典の用筆法を再確認することができたか。

(創造的な書表現の技能)(鑑賞の能力)

1 1 学習指導案

(1) 後期 第四・五次学習指導目標（二時間扱い）

- ① 書表現の諸要素を踏まえ、書写と書道の違いについて把握することができる。
(書への関心・意欲・態度)
- ② 古筆（名筆）を踏まえた書表現の諸要素における構成について理解できる。
(書表現の構想と工夫)

(2) 第四次の学習指導の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資 料
導 入	・出席確認 ・前時の学習内容を想起する。	・出席確認 ・前時の学習内容を想起するようにする。	・古典から得る用筆法を確認し、線質の違いに関して確認するようにする。	・「名筆」のよさや美しさを創造的に味わっている。	ワークシート NO, 4
展 開	・本時の学習内容を知る。 ・書写と書道の領域の違いに関して触れ、線質、構成と字形を重視した学習を踏まえ、自らの表現意図に基づいた作品制作を行う。 ・三色紙（寸松庵色紙・継色紙・升色紙）を通して、特徴となる構成について（空間処理・字形・落款等）確認する。 ・様々な形の紙を使用して、【秋のたより】を書き、構成に関して意識する。	・本時の学習内容を想起するようにする。 ・書写と書道の領域の違いに関して触れ、線質、構成と字形を重視した学習を踏まえ、自らの表現意図に基づいた作品制作を行うようにする。 ・三色紙（寸松庵色紙・継色紙・升色紙）を通して、特徴となる構成について（空間処理・字形・落款等）確認するようにする。 ・様々な形の紙を使用して、【秋のたより】を書き、構成に関して意識するようにする。	・書写と書道の領域の違いを踏まえ、学習過程をおさえるようにする。 ・線質・構成を踏まえた、自らの表現意図に基づいた作品制作を進めるようにする。 ・三色紙（寸松庵色紙・継色紙・升色紙）の構成の特徴を確認するようにする。 ・様々な形の紙を半紙のこせ、構成に関して意識させるようにする。	・「名筆」の内容や特徴、表現様式を理解している。 ・多様な運筆・用筆全体構成を習得し、自らの意図に基づいた様々な構成や線質を表現する能力を養っている。 ・多様な運筆・用筆全体構成を習得し、自らの意図に基づいた様々な構成や線質を表現する能力を養っている。 ・「名筆」の内容や特徴、表現様式を理解している。	- ワークシート NO, 4 - ワークシート NO, 4 - ワークシート NO, 5 - ワークシート NO, 5 様々な形の紙
整 理	・本時の学習内容を確認する。 ・次時の予告	・本時の学習内容を確認するようにする。 ・次時の予告	・提示された素材【秋のたより】における書く作業を通して、書表現の諸要素における構成を確認するようにする。 ・次回の課題を学習することを知るようにする。	・「名筆」の書表現の諸要素を感受している。 ・「名筆」の内容や特徴、表現様式を理解している。	ワークシート NO, 5 様々な形の紙

(3) 後期 第四次の評価

- ① 書表現の諸要素を踏まえ、書写と書道の違いについて把握することができたか。
(書への関心・意欲・態度)
- ② 古筆（名筆）を踏まえた書表現の諸要素における構成について理解できたか。
(書表現の構想と工夫)

1 1 学習指導案

(1) 後期 第六次の学習指導目標

- ① 教科書に掲載されている作品構成について、表現様式を理解する。 (書表現の構想と工夫)
- ② 自己の意図に基づいて書表現の諸要素 (構成) を意識し、表現する。 (書表現の構想と工夫)

(2) 第六次の学習指導の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資 料
導 入	・出席確認 ・前時の学習内容を想起する。	・出席確認 ・前時の学習内容を想起するようにする。	・書表現の諸要素 (構成) について再確認するようにする。	・文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考えている。	- ワークシート - NO, 6
展 開	・本時の学習内容を知る。 ・教科書の作品を鑑賞し、特徴を確認するようにする。 ・教科書の作品における構成について諸要素の関連を理解する。 ・提示された言葉【秋のたより】で構成を意識し、漢字仮名交じりの書で表現する。 ・自己評価し、清書をする。	・本時の学習内容を想起するようにする。 ・教科書の作品を鑑賞し、特徴を確認するようにする。 ・教科書の作品における構成について整理し理解するようにする。 - ア, 空間 イ, 文字の大小 ウ, 潤筆・渴筆 エ, 落款 ・提示された言葉【秋のたより】を漢字仮名交じりの書で表現するようにする。 ・自己評価し、清書するようにする。	・本時も、構成について学習することを知るようにする。 ・教科書の作品を鑑賞し、特徴を確認するようにする。 ・教科書の作品の構成を確認し、漢字と仮名の全体構成について理解するようにする。 ・提示された【秋のたより】を漢字仮名交じり文で半紙に表現するようにする。 ・自己評価し、清書をするようにする。	・文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考えている。 ・「名筆」のよさや美しさを創造的に味わっている。 ・多様な運筆・用筆全体構成を習得し、自らの意図に基づいた様々な構成や線質を表現する能力を養っている。 ・漢字仮名交じりの書を理解し、尊重する態度が身に付いている。 ・「名筆」の書表現の諸要素を感受している。	- ワークシート - NO, 6 - 書画カメラ - ワークシート - NO, 6 - ワークシート - NO, 6 - 書画カメラ - ワークシート
整 理	・本時の学習内容を確認する。 ・次時の予告	・本時の学習内容を確認するようにする。 ・次時の予告	・提示された作品【秋のたより】における漢字と仮名の表現様式について確認するようにする。 ・次回の課題を学習することを知るようにする。	・多様な運筆・用筆全体構成を習得し、自らの意図に基づいた様々な構成や線質を表現する能力を養っている。	

(3) 後期 第六次の評価

- ① 教科書に掲載されている作品構成について、表現様式を理解することができたか。
(書表現の構想と工夫)
- ② 自己の意図に基づいて書表現の諸要素 (構成) を意識し、表現することができたか。
(書表現の構想と工夫)

1 1 学習指導案

(1) 後期 第七次の学習指導目標

- ① 言葉を書く調子と曲調（音のリズム）感のつながりを理解する。（書への関心・意欲・態度）
 ② 言葉の深まりを考え、表現様式を理解する。（書表現の構想と工夫）

(2) 第七次の学習指導の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資 料
導 入	・出席確認 ・前時の学習内容を想起する。	・出席確認 ・前時の学習内容を想起するようにする。	・言葉の意味と音の関連について確認するようにする。	・書の伝統と文化を尊重している。	ワークシート NO, 7
展 開	・本時の学習内容を知る。	・本時は、「言葉」と「音」との関連を学習することを知るようにする。	・本時は、「音」と「言葉」の関連を学習することを知るようにする。	・漢字仮名交じりの書を理解し、尊重する態度が身に付いている。	ワークシート NO, 7
	・「音」を聞いて、「言葉」との関わりを理解する。	・「音」を鑑賞し、提示された言葉を鉛筆と毛筆を用い聞きながら書いていくことを理解するようにする。	・「音」を鑑賞し、「言葉」の意味との相違を確認するようにする。	・漢字仮名交じりの書を理解し、尊重する態度が身に付いている。	ワークシート NO, 7 CD（音楽）
	・「音」と「言葉」の意味が合致しているかを確認する。	・「音」と「言葉」の意味合いと運筆リズムとの関わりを理解するようにする。	・「音」と「言葉」による調和は、相互関係で成り立っていることを理解するようにする。	・感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	ワークシート NO, 7 CD（音楽）
	・「音」と「言葉」の意味がリズムによって調和していくことを理解する。	・「音」と「言葉」の曲調（リズム）が運筆に関連することを理解するようにする。	・「音」と「言葉」の曲調（リズム）が自己の運筆と深く関わっていることを理解するようにする。	・多様な運筆・用筆全体構成を習得し、自らの意図に基づいた様々な構成や線質を表現する能力を養っている。	ワークシート NO, 7
	・「言葉」の深まりを考え、リズムに合わせた調和感と自己の運筆リズムを確認し、理解する。	・「言葉」を読むことで、「言葉」の持つ意味合いや、特徴について理解するようにする。	・「言葉」の読みを通して、想像的な情報を獲得することを理解するようにする。	・感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	ワークシート NO, 7
	・自己評価し、「言葉」の深まりを理解する。	・自己評価し、「言葉」の意味との関連を考えるようにする。	・自己評価し、「言葉」の扱いを確認できるようにする。		ワークシート NO, 7
整 理	・本時の学習内容を確認する。 ・次時の予告	・本時の学習内容を確認するようにする。 ・次時の予告	・「音」と「言葉」の関わりを通して、運筆によるリズム感を確認できるようにする。 ・次回以降の学習することを知るようにする。	・感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	

(3) 後期 第七次の評価

- ① 言葉を書く調子と曲調（音のリズム）感のつながりを理解することができたか。（書への関心・意欲・態度）
 ② 言葉の深まりを考え、表現様式を理解することができたか。（書表現の構想と工夫）

1 1 学習指導案

(1) 後期 第八次の学習指導目標

- ① 提示された言葉を元に、自己の想像を深めることを理解する。 (書表現の構想と工夫)
- ② 書表現の諸要素(構成)を生かし、自己の意図に基づいた表現様式を理解する。
(創造的な書表現の技能)

(2) 第八次の学習指導の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資 料
導 入	・出席確認 ・前時の学習内容を想起する。	・出席確認 ・前時の学習内容を想起するようにする。	・言葉の持つリズムと表現様式を確認するようにする。	・感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	- ワークシート - NO, 8
展 開	・本時の学習内容を知る。	・本時の学習内容を想起するようにする。	・本時は、「現代詩」を学習することを知らるようにする。「現代詩」を漢字仮名交じり文で表現するようにする。	・文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身に付けて表している。	- ワークシート - NO, 8 - 書画カメラ
	・提示された「現代詩」を鑑賞し、特徴を確認する。	・提示された「現代詩」を鑑賞し、特徴を確認するようにする。 ア、第一印象 イ、創造 エ、作者像など	・提示された「現代詩」を鑑賞し、特徴を確認するようにする。	・文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身に付けて表している。	- ワークシート - NO, 8
	・「現代詩」における情景や想像について整理し理解する。	・「現代詩」における情景や想像について、確認し全体像を整理し理解できるようにする。	・「現代詩」における情景や想像について全体像を整理し、理解できるようにする。	・感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	- ワークシート - NO, 8
	・「現代詩」を書表現の諸要素を活用し、漢字仮名交じりの書で表現する。 ・自己評価し、清書をする。	・「現代詩」を書表現の諸要素を活用し、漢字仮名交じりの書で表現するようにする。 ・自己評価し、清書するようにする。	・「現代詩」を書表現の諸要素を活用し、半紙に表現するようにする。 ・自己評価し、清書をするようにする。	・多様な運筆・用筆全体構成を習得し、自らの意図に基づいた様々な構成や線質を表現する能力を養っている。	- ワークシート - NO, 8 - 書画カメラ - ワークシート
整 理	・本時の学習内容を確認する。 ・次時の予告	・本時の学習内容を確認するようにする。 ・次時の予告	・「現代詩」における漢字と仮名の表現様式について確認することができるようにする。 ・次回の課題を学習することを知るようにする。	・多様な運筆・用筆全体構成を習得し、自らの意図に基づいた様々な構成や線質を表現する能力を養っている。	

(3) 後期 第八次の評価

- ① 提示された言葉を元に、自己の想像を深めることを理解することができたか。
(書表現の構想と工夫)
- ② 書表現の諸要素(構成)を生かし、自己の意図に基づいた表現様式を理解することができたか。
(創造的な書表現の技能)

1 1 学習指導案

(1) 後期 第九・十次の学習指導目標（2時間扱い）

- ① 言葉の意味と関連させ、書表現の諸要素から取り入れる名筆との関わりを理解する。
(創造的な書表現の技能)
- ② 試書を通した草稿学習では、自らの意図に基づいて書表現の諸要素との関連を理解する。
(書表現の構想と工夫)

(2) 第九・十次の学習指導の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資 料
導 入	・出席確認 ・前時の学習内容を想起する。	・出席確認 ・前時の学習内容を想起するようにする。	・「言葉」と書表現の諸要素との関連について確認するようにする。	・イ、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	ワークシート NO, 9
展 開	・本時の学習内容を知る。 ・中原中也の「言葉」を読み、その情報を獲得し整理することについて確認する。 ・自己の意図に基づく表現効果について、中原中也の「言葉」との関連を理解する。 ・中原中也の「言葉」との調和を意識し、書表現の諸要素の活用について理解する。 ・自己評価し、試書をする。簡単に試書の感想をまとめることについて理解する。	・本時の学習内容を想起するようにする。 ・中原中也の「言葉」を読み、その情報を獲得し整理することについて確認するようにする。 ・自己の意図に基づく表現効果について、中原中也の「言葉」との関連を整理するようにする。 ・中原中也の「言葉」との調和を意識し、書表現の諸要素の活用について理解するようにする。 ・自己評価し、試書するようにする。	・本時は、「言葉」と書表現の諸要素との関連について知るようにする。 ・中原中也の「言葉」を読み、その特徴や情報について整理し確認するようにする。 ・中原中也の「言葉」の読みを通して、自己の意図と表現の工夫について理解するようにする。 ・中原中也の「言葉」と書表現の合致を目指し、諸要素を組み換え工夫し半紙に表現するようにする。 ・自己評価し、試書をするようにする。	・言葉（素材）を読み、その背景や情報を整理し、表現力を養っている。 ・言葉（素材）を読み、その背景や情報を整理し、表現力を養っている。 ・書表現の諸要素を、自己の意図に応じて活用し、表現様式の特徴を理解している。 ・「名筆」の効果的な表現の技能を身に付けている。 ・感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	- ワークシート NO, 9 - 書画カメラ ワークシート NO, 9, 10 - ワークシート NO, 9・10 - ワークシート NO, 10 書画カメラ - ワークシート NO, 10
整 理	・本時の学習内容を確認する。 ・次時の予告	・本時の学習内容を確認するようにする。 ・次時の予告	・「言葉」と諸要素の関連について確認するようにする。 ・次回の内容を確認するようにする。	・書表現の諸要素を、自己の意図に応じて活用し、表現様式の特徴を理解している。	

(3) 後期 第九・十次の評価

- ① 言葉の意味と関連させ、書表現の諸要素から取り入れる名筆との関わりを理解することができたか。
(創造的な書表現の技能)
- ② 試書を通した草稿学習を通して、自らの意図に基づいて書表現の諸要素との関連を理解することができたか。
(書表現の構想と工夫)

1 1 学習指導案

(1) 後期 第十一次の学習指導目標

- ① 書表現の諸要素を生かし、意図を明確にした作品づくりについて理解する。

(書表現の構想と工夫)

- ② 自己の意図に基づいた書表現の諸要素と名筆との関連を整理し、理解することができる。

(書への関心・意欲・態度)

(2) 第十一次の学習指導の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資 料
導 入	・出席確認 ・前時の学習内容を想起する。	・出席確認 ・前時の学習内容を想起するようにする。	・書表現の諸要素について再確認するようにする。	・「名筆」のよさや美しさを創造的に味わっている。	- ワークシート - NO, 11
展 開	・本時の学習内容を知る。 ・提示された言葉「私達は違う道を歩く」を読み深め、想像を働かせ情報を整理し理解する。 ・提示された言葉から、漢字と仮名の表現様式を整理し名筆との関連を理解する。(潤筆・渴筆、露鋒・蔵鋒・字形など) ・書表現の諸要素を活用し、名筆との位置づけを明確にさせ理解する。 ・自己評価し、試書をする。	・本時の学習内容を想起するようにする。 ・提示された言葉「私達は違う道を歩く」を読み深め想像を働かせ情報を整理するようにする。 ・提示された言葉から、漢字と仮名の表現様式を整理し名筆との関連を理解するようにする。(表現様式と名筆の位置づけ) ・書表現の諸要素を活用し、名筆との位置づけを明確にさせ自己の意図を理解するようにする。 ・自己評価し、試書をするようにする。	・本時は、書表現の諸要素と名筆の位置づけについて学習することを知らるようにする。 ・提示された言葉から、どのような書作品を目指すかまとめるようにする。 ・提示された言葉の漢字と仮名の表現様式と名筆との位置づけを理解するようにする。 ・書表現の諸要素と名筆との関連を理解し、自己の意図に基づいて表現するようにする。 ・自己評価し、清書をするようにする。	・「名筆」の内容や特徴、表現様式を理解している。 ・言葉(素材)を読み、その背景や情報を整理し、表現力を養っている。 ・多様な運筆・用筆全体構成を習得し、自らの意図に基づいた様々な構成や線質を表現する能力を養っている。 ・「名筆」の書表現の諸要素を感受している。 ・「名筆」の書表現の諸要素を感受している。	- ワークシート - NO, 11 - 書画カメラ - ワークシート - NO, 11 - ワークシート - NO, 11 - ワークシート - NO, 11 - 書画カメラ - ワークシート - NO, 11
整 理	・本時の学習内容を確認する。 ・次時の予告	・本時の学習内容を確認するようにする。 ・次時の予告	・提示された言葉における表現様式と名筆との関連を確認するようにする。 ・次回の課題を学習することを知らるようにする。	・言葉(素材)を読み、その背景や情報を整理し、表現力を養っている。	

(3) 後期 第十一次の評価

- ① 書表現の諸要素を生かし、意図を明確にした作品づくりについて理解することができたか。

(書表現の構想と工夫)

- ② 自己の意図に基づいた書表現の諸要素と名筆との関連を整理し、理解することができたか。

(書への関心・意欲・態度)

1 1 学習指導案

(1) 後期 第十二次の学習指導目標

- ① 自己の意図に基づき、書表現の諸要素と名筆（古典・古筆）の活用を明確に設定し表現する。
(書表現の構想と工夫)
- ② 名筆（古典・古筆）の鑑賞を通して、その特徴や要素を確認し表現する。
(鑑賞の能力)

(2) 第十二次の学習指導の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資 料
導 入	・出席確認 ・前時の学習内容を想起する。	・出席確認 ・前時の学習内容を想起するようにする。	・書表現の諸要素について再確認するようにする。	・「名筆」のよさや美しさを創造的に味わっている。	- ワークシート - NO, 1 2
展 開	・本時の学習内容を知る。 ・名筆（古典・古筆）の特徴を再確認する。 ・言葉と書表現の諸要素と名筆の関連を再確認する。 ・提示された言葉【心の強さは石をも貫く】を基に、墨継ぎや、全体構成、意図を理解する。 ・意図に基づく草稿の書き込みを確認し、理解する。 ・自己評価し、試書きをする。	・本時の学習内容を想起するようにする。 ・名筆（古典・古筆）の特徴を再確認するようにする。 ・言葉と書表現の諸要素と名筆の関連を再確認するようにする。 ・提示された言葉【心の強さは石をも貫く】墨継ぎや、全体構成、意図を理解するようにする。 ・意図に基づく草稿の書き込みを確認し、理解しようとする。 ・自己評価し、試書するようにする。	・本時は、名筆がどう作品と関連するか学習することをできるようにする。 ・教科書の作品を鑑賞し、特徴を確認するようにする。 ・教科書の作品の構成を確認し、漢字と仮名の全体構成について理解するようにする。 ・提示された【心の強さは石をも貫く】を漢字仮名交じり文で半折1／3サイズに表現するようにする。 ・意図に基づく草稿の書き込みを確認し、理解しようとする。 ・自己評価し、試書をするようにする。	・「名筆」の書表現の諸要素を感受している。 ・「名筆」のよさや美しさを創造的に味わっている。 ・感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 ・多様な運筆・用筆全体構成を習得し、自らの意図に基づいた様々な構成や線質を表現する能力を養っている。	- ワークシート - NO, 1 2 - 書画カメラ - ワークシート - NO, 1 2 - ワークシート - NO, 1 2 - ワークシート - NO, 1 2
整 理	・本時の学習内容を確認する。 ・次時の予告	・本時の学習内容を確認するようにする。 ・次時の予告	・言葉・諸要素・名筆が自己の意図から派生することをできるようにする。 ・次回も同様の学習をすることをできるようにする。	・言葉（素材）を読み、その背景や情報を整理し、表現力を養っている。	

(3) 後期 第十二次の評価

- ① 自己の意図に基づき書表現の諸要素と名筆（古典・古筆）の活用を明確に設定し表現することができたか。
(書表現の構想と工夫)
- ② 名筆（古典・古筆）の鑑賞を通して、その特徴や要素を確認し表現することができたか。
(鑑賞の能力)

1 1 学習指導案

(1) 後期 第十三・十四次の学習指導目標（2時間扱い）

① 自己の意図に基づき、書表現の諸要素と名筆（古典・古筆）の活用を明確に設定し表現する。

（書表現の構想と工夫）

② 名筆（古典・古筆）の鑑賞を通して、その特徴や書表現の諸要素を確認し表現する。（鑑賞の能力）

(2) 第十三・十四次の学習指導の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資 料
導 入	・出席確認 ・前時の学習内容を想起する。	・出席確認 ・前時の学習内容を想起するようにする。	・書表現の諸要素について再確認するようにする。	・「名筆」のよさや美しさを創造的に味わっている。	- ワークシート - NO, 13
展 開	・本時の学習内容を知る。 ・名筆（古典・古筆）の特徴を再確認する。 ・言葉と書表現の諸要素と名筆の関連を再確認する。 ・提示された言葉【世界に一つだけの花】を基に、墨継ぎや、全体構成、意図を理解する。 ・意図に基づく草稿の書き込みを確認し、理解する。 ・自己評価し、試書きをする。	・本時の学習内容を想起するようにする。 ・名筆（古典・古筆）の特徴を再確認するようにする。 ・言葉と書表現の諸要素と名筆の関連を再確認するようにする。 ア、名筆（古典）の用筆・運筆 イ、名筆（古筆）三色紙から ・提示された言葉【世界に一つだけの花】墨継ぎや、全体構成、意図を理解するようにする。 ・意図に基づく草稿の書き込みを確認し、理解するようにする。 ・自己評価し、試書するようにする。	・本時も、構成について学習することをできるようにする。 ・教科書の作品を鑑賞し、特徴を確認するようにする。 ・教科書の作品の構成を確認し、漢字と仮名の全体構成について理解するようにする。 ・提示された【世界に一つだけの花】を漢字仮名交じり文で半折1／3サイズに表現するようにする。 ・意図に基づく草稿の書き込みを確認し、理解するようにする。 ・自己評価し、試書をするようにする。	・感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 ・「名筆」の書表現の諸要素を感受している。 ・多様な運筆・用筆全体構成を習得し、自らの意図に基づいた様々な構成や線質を表現する能力を養っている。 ・感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 ・言葉（素材）を読み、その背景や情報を整理し、表現力を養っている	- ワークシート - NO, 13 - 書画カメラ - ワークシート - NO, 13 - ワークシート - NO, 13 - ワークシート - NO, 13
整 理	・本時の学習内容を確認する。 ・次時の予告	・本時の学習内容を確認するようにする。 ・次時の予告	・言葉、書表現の諸要素、名筆が自己の意図から派生することを知るようにする。 ・次回の課題を学習することを知るようにする。	・言葉（素材）を読み、その背景や情報を整理し、表現力を養っている。	

(3) 後期 第十三次の評価

① 自己の意図に基づき書表現の諸要素と名筆（古典・古筆）の活用を明確に設定し表現することができたか。

（書表現の構想と工夫）

② 名筆（古典・古筆）の鑑賞を通して、その特徴や諸要素を確認し表現することができたか。

（鑑賞の能力）

1 1 学習指導案

(1) 後期 第十五次の学習指導目標

- ① 国語科との連携を通して、自らの言葉を表現することを理解する。 (書への関心・意欲・態度)
- ② 自己の意図に基づいて、言葉と書表現の諸要素、名筆を選択し漢字仮名交じり文で表現する。
(創造的な書表現の技能)

(2) 第十五次の学習指導の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資 料
導 入	・出席確認 ・前時の学習内容を想起する。	・出席確認 ・前時の学習内容を想起するようにする。	・書表現の諸要素について再確認するようにする。	・「名筆」のよさや美しさを創造的に味わっている。	ワークシート NO, 13
展 開	・本時の学習内容を知る。 ・国語科の連携を通して、自ら作った言葉の意味を確認する。 ・自らの言葉を読み深め、漢字と仮名の表現の様式を理解する。 ・自らの意図に基づいて、言葉と書表現の諸要素、名筆との関わりを理解する。 ・自ら作った言葉を、書表現の諸要素、名筆に関連させ、言葉の持つ意味に即した表現を理解する。 ・自己評価し、第1回目の作品を清書する。	・本時の学習内容を想起するようにする。 ・国語科の連携を通して、自ら作った言葉の意味を確認するようにする。 ・自らの言葉を読み深め、漢字と仮名の表現の様式を理解するようにする。 ・自らの意図に基づいて、言葉と書表現の諸要素、名筆との関わりを理解するようにする。 ・自ら作った言葉を、書表現の諸要素、名筆に関連させ、言葉の持つ意味に即した表現を理解するようにする。 ・自己評価し、第1回目の作品を清書するようにする。	・自己の意図を整理し、半折1/3で書くことを知るようにする。 ・自ら作った言葉から、特徴や主張したいことを確認するようにする。 ・自らの言葉を読み深め、漢字と仮名の表現の様式を理解するようにする。 ・自らの意図に基づいて、諸要素と名筆の関わりを理解するようにする。 ・自ら作った言葉に責任を持ち、言葉と作品が響き合うことを理解するようにする。 ・自己評価し、第1回目の作品を清書するようにする。	・「名筆」の効果的な表現の技能を身に付けている。 ・書表現の諸要素を、自己の意図に応じて活用し、表現様式の特徴を理解している。 ・漢字仮名交じりの書を理解し、尊重する態度が身に付いている。 ・文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身に付けて表している。 ・「名筆」の効果的な表現の技能を身に付けている。 ・「名筆」の内容や特徴、表現様式を理解している。	- ワークシート NO, 13 - 書画カメラ ワークシート NO, 13 - ワークシート NO, 13 - ワークシート NO, 13 - ワークシート NO, 13 - ワークシート NO, 13
整 理	・本時の学習内容を確認する。 ・次時の予告	・本時の学習内容を確認するようにする。 ・次時の予告	・漢字と仮名の表現様式について確認するようにする。 ・次回の課題を学習することを覚えるようにする。	・文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身に付けて表している。	

(3) 後期 第十五次の評価

- ① 国語科との連携を通して、自らの言葉を表現することを理解することができたか。
(書への関心・意欲・態度)
- ② 自己の意図に基づいて、言葉と書表現の諸要素、名筆を選択し漢字仮名交じり文で表現することができたか。
(創造的な書表現の技能)

(1) 後期 第十六次の学習指導目標

① 国語科との連携を通して、自らの言葉に責任を持ち漢字と仮名の表現様式を理解する。

(書への関心・意欲・態度)

② 自己の言葉における制作意図に基づいて、書表現の諸要素、名筆を選択し漢字仮名交じり文で表現する。

(創造的な書表現の技能)

(2) 第十六次の学習指導の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資 料
導 入	・出席確認 ・前時の学習内容を想起する。	・出席確認 ・前時の学習内容を想起するようにする。	・書表現の諸要素について再確認するようにする。	・「名筆」のよさや美しさを創造的に味わっている	ワークシート NO, 14 教材カード
展 開	・本時の学習内容を知る。 ・国語科との連携を生かし、素材の元となった作者(宮沢賢治)の書を鑑賞する。 ・自己の言葉を再確認し、第2の作品制作について、意図を理解し清書する。 ・自己の言葉を再度構想し、第3の作品制作について、工夫改善し意図を再構築し、清書する。 ・1回目の試書から、段階を踏まえて書表現することで、自己の表現に変化が生じていることについて理解する。 ・自己の意図と書表現の諸要素、名筆の関連について説明する。 ・自己評価する。	・本時の学習内容を想起するようにする。 ・国語科との連携を生かし、言葉の素材の元となった作者(宮沢賢治)の書を鑑賞するようにする。 ・自己の言葉を再確認し、第2の作品制作について、意図を理解し清書するようにする。 ・自己の言葉を再度構想し、第3の作品制作について、工夫改善し意図を再構築し、清書するようにする。 ・1回目の試書から、段階を踏まえて書表現することで、自己の表現に変化が生じていることについて理解するようにする。 ・自己の意図と書表現の諸要素、名筆の関連について説明するようにする。 ・自己評価するようにする。	・自らの言葉を意図に基づいて段階的に変化させながら書表現することをできるようにする。 ・宮沢賢治の書を鑑賞し、特徴を確認しようとする。 ・自己の言葉と書表現の諸要素、名筆との関わりが響いているか確認するようにする。 ・書表現の諸要素と名筆の関連を意識し、自己の意図に応じた書表現を理解するようにする。 ・名筆の要素を生かし、自己の言葉における諸要素の選択により変化が生じることを理解するようにする。 ・自己のワークシートを確認し意図を明確に伝えられるようにする。 ・自己評価するようにする。	・書表現の諸要素を、自己の意図に応じて活用し、表現様式の特徴を理解している。 ・「名筆」のよさや美しさを創造的に味わっている。 ・文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身に付けて表している。 ・書表現の諸要素を、自己の意図に応じて活用し、表現様式の特徴を理解している。 ・「名筆」の効果的な表現の技能を身に付けている。 ・書表現の諸要素を、自己の意図に応じて活用し、表現様式の特徴を理解している。	ワークシート NO, 14 書画カメラ・資料 ワークシート NO, 14 ワークシート NO, 14 書画カメラ ワークシート NO, 14 ワークシート NO, 14 ワークシート NO, 14
整 理	・本時の学習内容を確認する。 ・次時の予告	・本時の学習内容を確認するようにする。 ・次時の予告	・自己の言葉における表現様式について確認することができる。 ・次回も学習することを知るようにする。	・漢字仮名交じりの書を理解し、尊重する態度が身に付いている。	

(3) 後期 第十六次の評価

- ① 国語科との連携を通して、自らの言葉に責任を持ち漢字と仮名の表現様式を理解することができたか。
(書への関心・意欲・態度)
- ② 自己の言葉における制作意図に基づいて、言葉と書表現の諸要素、名筆を選択し漢字仮名交じり文で表現することができたか。
(創造的な書表現の技能)

1.1 学習指導案

(1) 後期 第十七次の学習指導目標

- ① 他者の作品を鑑賞し、作品の意図を想像しながらよさや美しさを理解する。
(鑑賞の能力)

(2) 第十七次の学習指導の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資 料
導 入	・出席確認 ・前時の学習内容を想起する。	・出席確認 ・前時の学習内容を想起するようにする。	・書表現の諸要素について再確認するようにする。	・文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考えている。	ワークシート NO, 15
展 開	・本時の学習内容を知る。 ・他者の作品を鑑賞し、意図を想像する。 ・鑑賞を通して、他者の作品意図を分析する。 ・各グループで、他者の作品意図を出し合い、共通した項目のみ代表者が発表する。 ・自己評価と感想をまとめる。	・本時の学習内容を想起するようにする。 ・他者の作品を鑑賞し、意図を想像するようにする。 ・鑑賞を通して、他者の作品意図を分析するようにする。 ア、空間 イ、文字の大小 ウ、潤筆・渴筆 エ、落款 ・各グループで、他者の作品意図を出し合い、共通した項目のみ代表者が発表するようにする。 ・自己評価と感想をまとめるようにする。	・本時は、他者の作品鑑賞を行い、よさや美しさを確認するようにする。 ・他者の作品を鑑賞し、意図を想像するようにする。 ・鑑賞を通して、他者の作品意図を分析するようにする。 ・各グループで、他者の作品意図を活発に出すようにする。 ・自己評価と感想をまとめるようにする。	・漢字仮名交じりの書を理解し、尊重する態度が身についている。 ・書の伝統と文化を尊重している。 ・「名筆」の内容や特徴、表現様式を理解している。 ・「名筆」の内容や特徴、表現様式を理解している。 ・文字や書の伝統と文化について理解を深め、その価値を考えている。 ・「名筆」のよさや美しさを創造的に味わっている。	- ワークシート NO, 15 - 書画カメラ ワークシート NO, 15 - ワークシート NO, 15 - ワークシート NO, 15 書画カメラ
整 理	・本時の学習内容を確認する。 ・次時の予告	・本時の学習内容を確認するようにする。 ・次時の予告	・漢字仮名交じりの書の表現様式と調和について確認するようにする。	・書の伝統と文化を尊重している。	

(3) 後期 第十七次の評価

- ① 他者の作品を鑑賞し、作品の意図を想像しながらよさや美しさを理解することができたか。
(鑑賞の能力)